

# 短大生における就職活動と卒業後の状況

—ファッション・デザインコースにおける実態調査を中心に—  
College Students' Condition for Job Hunting and after Employment  
— Focusing on the Case Study for Fashion-Design Course Students —

先川 直子  
(Naoko SAKIKAWA)

## I. はじめに

目白大学短期大学部生活科学科では、2006年7月に1年生全員を対象に、生活実態調査を実施し、『目白大学短期大学部研究紀要』第43号（平成19年2月）に3報に分けて発表した<sup>1)</sup>。

また、『目白大学短期大学部研究紀要』第44号（平成20年3月）掲載の拙稿においては、前出の第43号掲載の第2報の内容について、学生のコースによる差異と特性を明らかにするとともに、1年後の2007年7月に、前述の調査の回答者でもあるファッション・デザインコースの2年生を対象に同様のアンケート調査を実施し、短大生活の1年間で学生の意識や価値観がどのように変化したのか・しなかったのかを明らかにし、さらに踏み込んで、変化した、あるいは変化しなかった原因についても考察した。

その時、就職活動状況についても同時にアンケート調査を実施し、学生生活との関連で少しだけ言及した<sup>2)</sup>。

しかし、学生から得られたデータには担任として、ないしは短期大学部生活科学科の進路指導委員として考えさせられる点も多く含まれていたため、その反省のもとに改善をして2008年度のクラス運営と進路指導を行うこととした。

そして、2008年7月に、1年後輩に当たるファッション・デザインコース2年生（2009年3月卒業）にも同様の就職活動に関するアンケート調査を実施した。

さらに、今年8月に上記の2008年3月卒業生と2009年3月卒業生に対して、就職後の変化をも含めたアンケート調査を往復はがきにより実施した。

本稿では、これらのアンケート調査結果から、短期大学部学生における就職活動の実態、および就職活動における担任の役割、進路指導のあり方について焦点をあてて考察し、就職後の実態についても言及したい。

そして、問題点を浮き彫りにして原因を明らかにすることによって、今後の指導の方向性を探ることを目的としている。

## II. 2007年度の生活実態調査にみる就職活動

2007年7月にファッション・デザインコース2年生を対象に、添付資料1のようなアンケー

ト調査を実施した。

ファッション・デザインコース2年生は「もの作り」(以後「ゼミ1」と略す)、「アパレル研究」(以後「ゼミ2」と略す)、「ファッション研究」(以後「ゼミ3」と略す)、「デザイン研究」(以後「ゼミ4」と略す)の4ゼミに分かれており、「ゼミ1」と「ゼミ2」の2ゼミを担当が担当している。

アンケートの回収数はゼミ1：7名、ゼミ2：16名、ゼミ3：10名、ゼミ4：9名の、合計42名である。

## 1. 就職活動状況

表1はアンケート調査に回答したファッション・デザインコース2年生42名の2007年7月20日までの就職活動状況である。

表1 就職活動状況（2007年7月20日現在）

|          | ゼミ1 | ゼミ2 | ゼミ3 | ゼミ4 | 合計 |
|----------|-----|-----|-----|-----|----|
| まだやっていない | 0   | 2   | 2   | 4   | 8  |
| 就職活動中    | 5   | 7   | 5   | 3   | 20 |
| 就職活動終了   | 2   | 7   | 3   | 2   | 14 |
| 合計       | 7   | 16  | 10  | 9   | 42 |

|         |       |                                  |                |                |    |
|---------|-------|----------------------------------|----------------|----------------|----|
| 内定者     | 3     | 11                               | 3              | 2              | 19 |
| 内定の出た時期 | 6月-3人 | 4月-5人<br>5月-3人<br>6月-2人<br>7月-1人 | 4月-1人<br>7月-2人 | 4月-1人<br>5月-1人 |    |

全体では、まだ就職活動をしていない学生が8名（19.0%）、就職活動をしている学生が34名（81.0%）であり、そのうちの就職活動中が20名（47.6%）、就職活動終了が14名（33.3%）である。また、内定者が19名おり、就職活動をしている学生のうちの半数以上が7月までに内定を貰っていること、および就職活動をしている学生のうちの14.7%に当たる5名の学生は企業から内定を貰った後も、さらに受験をしているということが分かる。

次に、各ゼミごとの就職状況について詳細にみていくことにする。

ゼミ1では7名全員が就職活動をしており、そのうちの5名（71.4%）がこの時点で就職活動中であり、2名（28.6%）が既に就職活動を終了している。内定者は3名（42.9%）なので、内定者のうちの1名は内定を貰った後もさらに就職活動が続けていることが分かる。しかし、このゼミはおとなしくて接客があまり得意ではないため、アパレルの販売職ではなくアパレルの事務職などをめざしている学生も多く、募集人員の少なさに苦戦して6月にやっと内定が出た。

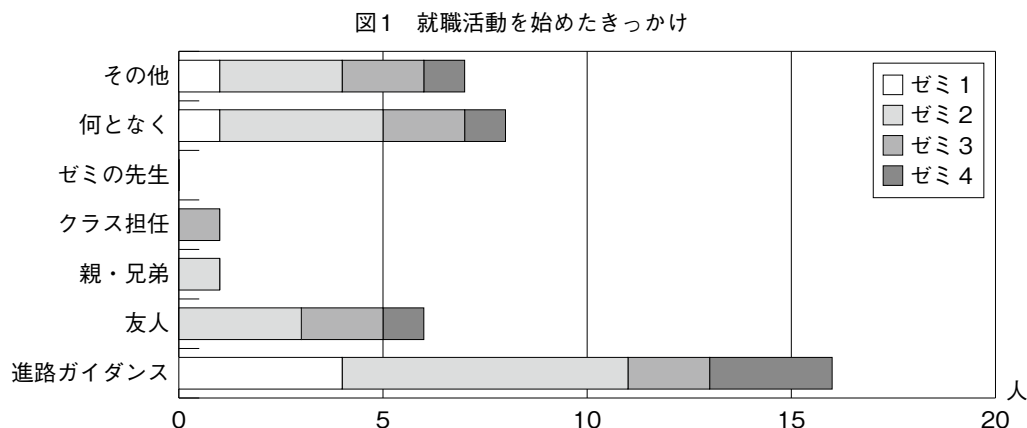
ゼミ2では16名のうちで14名(87.5%)が就職活動をしており、その中の11名(68.8%)がすでに内定を貰っており、しかもその4分の3近い割合の学生が4月・5月といった早い時期に内定を貰っている。また、就職活動の内訳は、就職活動中7名(43.8%)、就職活動終了7名(43.8%)であり、内定を貰った後もさらに自分の志望に近い企業への就職を目指して就職活動を続行している学生が4名(25.0%)いることが分かる。しかし、2名(12.5%)がまだ就職活動をしておらず、早い時期から内定を貰っている学生達の中で取り残されていると考えられる。

ゼミ3では10名のうちで8名(80.0%)が就職活動をしており、内定者は3名(30.0%)で、就職活動中5名(50.0%)、就職活動終了3名(30.0%)であり、1社に内定した段階で他社を受験することなく就職活動を終了している。

ゼミ4では9名のうち就職活動をしているのは5名(55.6%)と、全体の2分の1強しかおらず、4名(44.4%)がまだ就職活動をしていない。就職活動をしている学生のうち就職活動中が3名(33.3%)であり、内定者2名(22.2%)が就職活動を終了している。この2名は4月と5月に内定を貰っているのだが、それがゼミの他の学生に対して波及効果を及ぼすには至っていないと考えられる。

## 2. 就職活動のきっかけ

上記の「1. 就職活動状況」で就職活動をしていることが判明したゼミ1：7名、ゼミ2：14名、ゼミ3：8名、ゼミ4：5名の合計34名の学生について、就職活動を開始したきっかけについて複数回答可ということで回答してもらい集計したのが図1である。



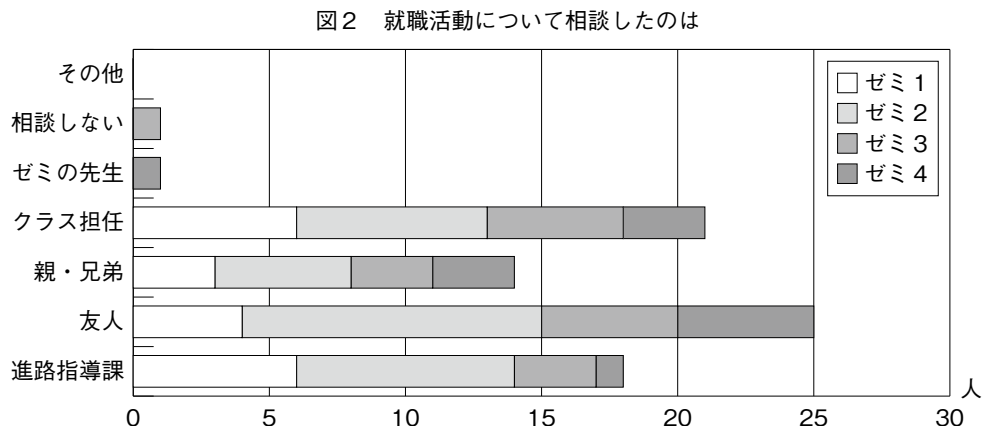
まず、全体的をみていくと、「進路ガイダンス」が16名(47.1%)と、半数近い学生の就職活動のきっかけになっていることが判明した。続いて「何となく」(23.5%)や「友人」(17.6%)となっており、「親・兄弟」や「クラス担任」は1名(2.9%)と少なく、「ゼミの先生」を

挙げた学生は皆無であった。また、「その他」が7名いるが、その内容は「将来を考えた」「元からする気だった」「自分で考えた」という積極的な動機の外に、「早く終わらせたい一心で」「早く決めてしまいたかった」「夏休みを遊んで過ごしたかった」と未記入がそれぞれ1名ずつである。

これをゼミ別に見ていくと、ゼミ1では就職ガイダンスと自分自身の決意だけで、友人や親・兄弟、担任の教員などといった他者の言葉をきっかけにしてはいないことが分かった。それに対して、ゼミ3では「進路ガイダンス」をきっかけとしてあげる学生の割合が少なく、グラフの分布は完全に分散しており、特定の何かをきっかけにしてはいないことが分かった。

### 3. 就職活動についての相談先

上記と同様に、就職活動をしている34名が、就職活動について誰に相談しているのかを複数回答可ということで回答してもらった結果が図2である。



全体としては、「友人」が25名（73.5%）と圧倒的に大きな割合を占めており、学生の4人に3人は友人に相談していることがわかる。次は「クラス担任」の21人（61.8%）で、続いて「進路指導課」18名（52.9%）、「親・兄弟」14名（41.2%）となる。

しかし、クラス担任がゼミも担当していたゼミ1とゼミ2を除いたゼミ3とゼミ4において「ゼミの先生」に相談していた学生は1名しかいなかった。

ゼミごとの特徴をみていくと、ゼミ1だけが「友人」4名（57.1%）よりも「進路指導課」6名（85.7%）、「クラス担任」6名（85.7%）と、学校における進路指導を利用して就職活動をしていることが分かる。これはゼミ1が「もの作りゼミ」で比較のおとなしい学生が多く、居残りで実習室で過ごす時間も長いために、他のゼミに比べて担当教員との接触も多いことに起因していると考えられる。

一方、ゼミ4では回答した学生5名のうちで「進路指導課」を挙げた学生が1名しかおらず、

反面、5人全員が「友人」を挙げるなど、ゼミ1と対象的な傾向を示している。

ゼミ3とゼミ4ではクラス担任がゼミ担当ではなく、クラス担任の授業が皆無であるにもかかわらず、ゼミ3の学生8名中5名(62.5%)が「クラス担任」を挙げている。反面、「ゼミの先生」に相談した学生はいなかったことが判明した。

これらの結果をみると、一般的にはまず相談するのが友人で、次にクラス担任であり、クラス担任の指導の如何によって進路指導課に相談に行くということが分かる。

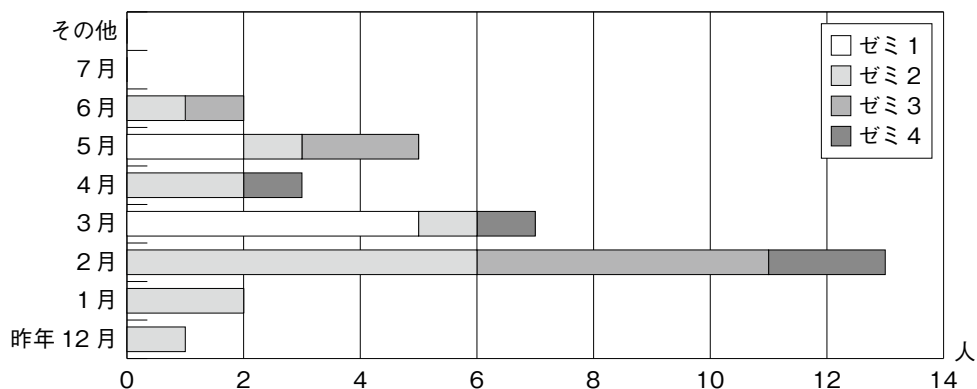
また、ゼミ4のように、クラス担任との授業での接触がない場合、担任と学生の双方が努力をしないと、クラス担任にも相談せず、したがって進路指導課にも行かずにいる割合が多いことが分かった。

しかも、この学生たちはゼミ担当教員を就職活動の相談相手とは全く考えていないということも判明した。このことはゼミの担当者を決める上での大きな課題であると考えられる。

#### 4. 就職セミナー・説明会に最初に行った時期

就職活動をしていると回答した34名について、就職関連のナビを運営している会社が主催する就職セミナーや合同説明会も含めて、就職セミナーないしは説明会に最初に参加した時期について調査した結果は図3の通りである。

図3 就職セミナー・説明会に最初に行った時期

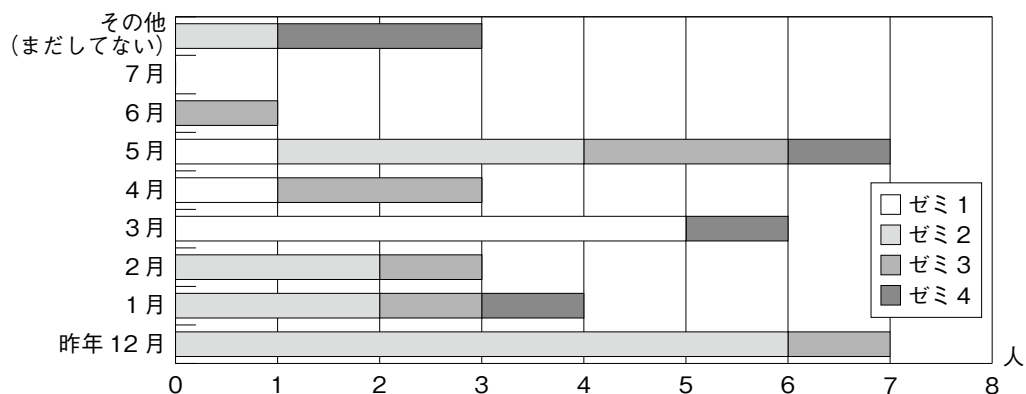


これをみると、2月に13名(38.2%)と、4割近い学生が初めて参加しており、続いて3月(20.6%)、5月(14.7%)の順になっている。したがって、短大の1年生が本格的に就職活動で動き出すのは秋学期終了後の春休みからと言えよう。ただし、ゼミ2の学生たちは12月や1月に参加しており、他のゼミに比べて就職活動での動きが早かったことが分かる。このことが、3月に行動を開始したゼミ1の学生や2月に開始したゼミ3、ゼミ4の学生たちとの内定時期に関する大きな違いとなって現れたのかも知れない。

## 5. 会社に最初にエントリーした時期

図4は学生が特定の企業を自ら選んで最初にエントリーした時期についての集計結果である。

図4 会社に最初にエントリーした時期



これをみると、全体としては12月と5月の20.6%をピークとして、各月に分散していることが分かる。

ただし、ゼミごとにみていくと、ゼミ2では12月に6名(42.9%)と、4割以上の学生はエントリーを開始しており、2月までに7割以上の学生がエントリーを行っている。しかし、このゼミ2の中に7月20日の時点でセミナーや合同説明会には参加したものの、具体的な企業へのエントリーを全くしていない学生が1名含まれていることは、ゼミの中での孤立を連想させる現象であり、担任としては非常に大きな問題を含んでいると感じた。

また、就職活動をしていない学生の割合が44.4%と最も高いゼミ4においては、就職活動中と言いながらも、全くエントリーをしていない学生が2名(20.0%)いた。したがって、このゼミ4の10名の中で実際に就職活動をしていると言えるのは3名(30.0%)だけだということも明らかになった。

一方、ゼミ1においては出足はどこよりも遅く3月のスタートであるが、ゼミの学生たちが揃って同じようなパターンで行動していることが伺える。

## Ⅲ. 2008年度の就職活動に関するアンケート調査結果

2008年7月下旬に短期大学部生活科学科ファッション・デザインコース2年生に対して、就職活動に関するアンケート調査を実施した。これは前年度のアンケート結果から、3ゼミをすべてクラス担任が担当するなどの授業改善や毎週のゼミの時に求人情報を流すといった進路指導上の改善をしたために、多少の変更と追加はあるが、Ⅱ章で取り上げた2007年度の2年生へのアンケートと基本的には同様のものである。(資料2)

アンケートの対象者は「ファッション研究」（以後、ゼミ1と略す）と「もの作りA」（ゼミ2と略す）「もの作りB」（ゼミ3と略す）の3ゼミの学生であり、回答者数はゼミ1：7名、ゼミ2：7名、ゼミ3：8名の合計22名である。

## 1. 就職活動状況

就職活動状況は表2の通りである。全体ではまだ就職活動をしていない学生が3名（13.6%）おり、就職活動をしている学生は19名（86.3%）で、そのうちで就職活動中が12名（54.5%）、就職活動終了者が7名（31.8%）である。また、内定者が9名おり、就職活動をしている学生の半数弱が7月までに内定を貰っていること、および就職活動をしている学生のうちの10.5%に当たる2名は内定を貰った後も更に就職活動を続行し、他社を受験していることが分かる。

表2 就職活動状況（2007年7月20日現在）

|          | ゼミ1 | ゼミ2 | ゼミ3 | 合計 |
|----------|-----|-----|-----|----|
| まだやっていない | 0   | 2   | 1   | 3  |
| 就職活動中    | 3   | 2   | 7   | 12 |
| 就職活動終了   | 4   | 3   | 0   | 7  |
| 合計       | 7   | 7   | 8   | 22 |

|         |                         |                                  |   |   |
|---------|-------------------------|----------------------------------|---|---|
| 内定者     | 4                       | 5                                | 0 | 9 |
| 内定の出た時期 | 4月-1人<br>5月-2人<br>6月-1人 | 4月-1人<br>5月-1人<br>6月-1人<br>7月-2人 |   |   |

次にゼミごとの就職状況について詳細に見ていくことにする。

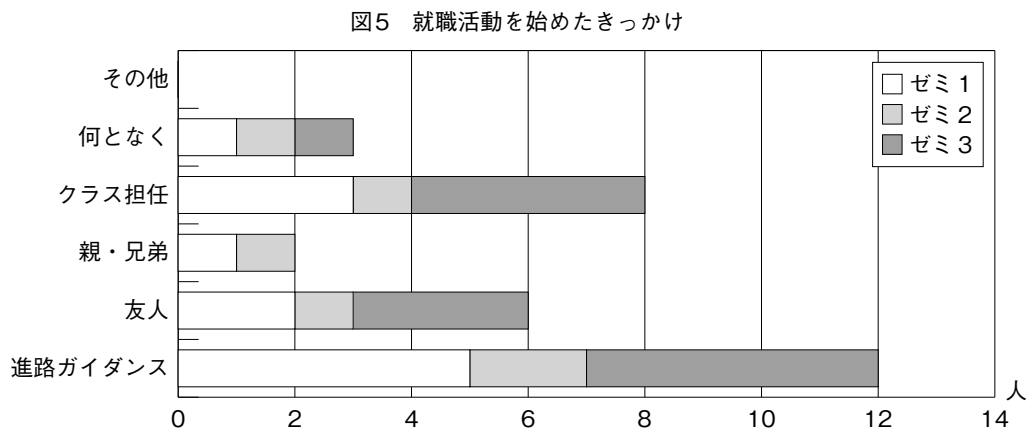
ゼミ1ではまだ就職活動をしていない学生は皆無であり、7名中4名（57.1%）が内定をもらい就職活動を終了している。

ゼミ2では「まだしていない」：2名（28.6%）、「就職活動中」：2名（28.6%）、「就職活動終了」：3名（42.9%）と分散して分布しており、内定の時期も各月に分散している。しかも、内定者が5名いることから、就職活動中の2名は内定を貰いながらも、さらに志望の企業への入社を目指して就職活動を続行している学生であり、内定が出ないまま就職活動を続けている学生はいないことが明らかになった。

一方、ゼミ3では「まだしていない」：1名（12.5%）、「就職活動中」：7名（87.5%）、「就職活動終了」：0名、「内定者」：0名であり、詳しくは後述するが、就職セミナーや会社説明会に行ったりエントリーしたりといった実際の行動をとっている学生も少なく、ゼミ2とは反対に、就職活動中とは言いながら実際にはなんら具体的な行動を取っていない学生が多いことが判明した。

## 2. 就職活動のきっかけ

前記の「1. 就職活動状況」で就職活動をしていることが判明したゼミ1：7名、ゼミ2：5名、ゼミ3：7名の合計19名の学生について、就職活動を始めたきっかけについて複数回答可ということで回答してもらい集計したのが図5である。



まず、全体を見ていくと、「進路ガイダンス」が12名（63.2%）と、3分の2近い学生の就職活動のきっかけになっていることが判明した。続いて「クラス担任」（42.1%）、「友人」（31.6%）となっており、「親・兄弟」や2007年度のアンケート結果では多かった「何となく」は少なく、「その他」の回答をした学生はいなかった。これは前年度の反省に基づく改善策の効果と考えられよう。

また、ゼミ別にみても、前年度と異なり、ゼミによる相違は余り生じていないことが分かった。

## 3. 就職活動についての相談先

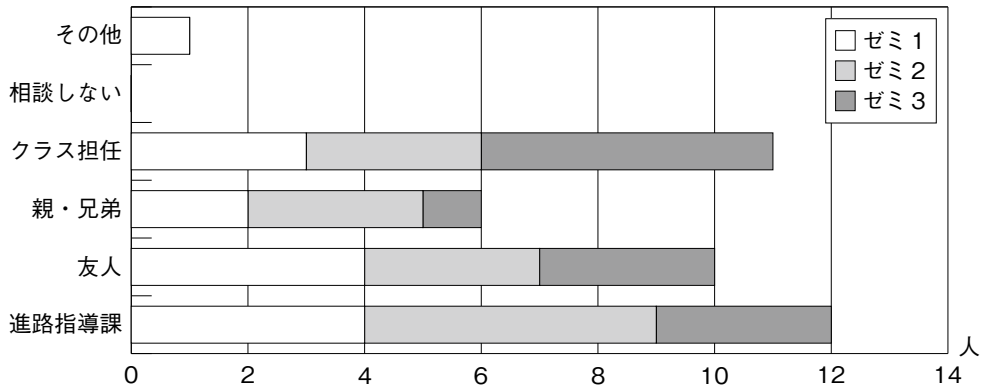
上記と同様に、就職活動をしている19名が、就職活動について誰に相談しているのかを複数回答可ということで回答してもらった結果が図6である。

全体としては、「進路指導課」が12名（63.2%）で第1位を占めており、3分の2近い学生が進路指導課に相談していることがわかる。そして「クラス担任」の11人（57.9%）、「友人」10名（52.6%）と続き、「親・兄弟」は6名（31.6%）であった。

また、ゼミごとにみえていくと、ゼミ2では「進路指導課」が100%であるのに対して、就活の動きの遅いゼミ3においては「進路指導課」42.9%と、半数以下の学生しか相談に行っていない。しかし、「クラス担任」は71.4%と他を引き離れた高い割合を示している。このことはゼミ3の集団が前年度のゼミ4の集団と同様の傾向を有し、自分から就職活動しようとはせず、自らすすんで進路指導課に行くことはないものの、ゼミの時間にクラス担任から顔を合わせる



図6 就職活動で相談したのは

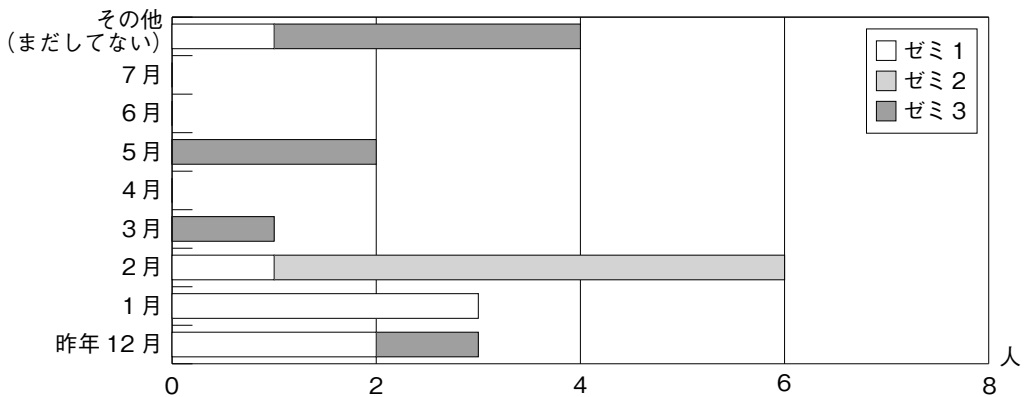


度に何かと言われ、そのついでに半ば強制的に相談するという現実を物語っているということが出来よう。これも前年度の反省のもとに、総てのゼミをクラス担任が持ち、学生全員がクラス担任と、是が非でも接触できるように改善したことに起因していると考えられる。

#### 4. 就職セミナー・説明会に最初に行った時期

就職活動をしていると回答した19名について、就職関連のナビを運営している会社が主催する就職セミナーや合同説明会も含めて、就職セミナーないしは説明会に最初に参加した時期について調査した結果は図7の通りである。

図7 就職セミナー・説明会に最初に行った時期



これをみると、2月に6名(31.6%)と、学生の3分の1近くが初めて参加しており、続いて12月(15.8%)、1月(15.8%)の順になっている。したがって、前年度の学生と同様に短大の1年生の多くが本格的に就職活動で動き出すのは秋学期終了後の春休みからと言えよう。ただし、前年は2月の次に3月、5月と続いたのに対して、2008年度の学生は12月と1月という

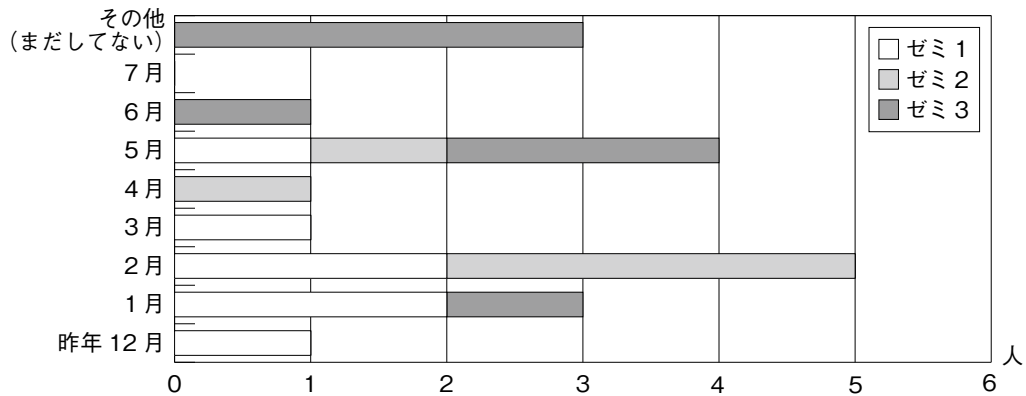
ように時期が早くなっていることが分かる。

特に、ゼミ1の学生たちは、図3で明らかなように前年に早くから参加していた前年度のゼミ2の学生たちと同様の行動を取っているが、ゼミ3の学生たちは出遅れており、まだ参加したことのない学生もゼミの42.9%を占めるなど、この項目でも前年度のゼミ4の学生たちと同様の傾向を示している。

### 5. 会社に最初にエントリーした時期

図8は学生が特定の企業を自ら選んで最初にエントリーした時期についての集計結果である。

図8 会社に最初にエントリーした時期



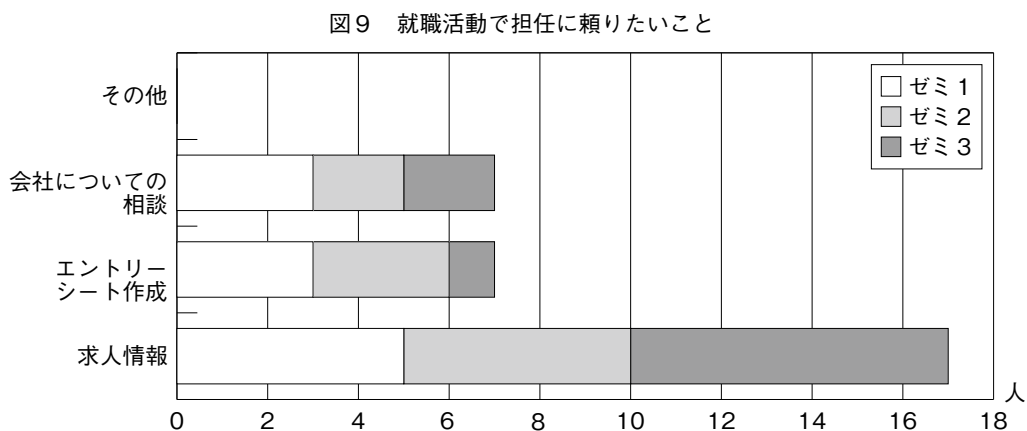
これをみると、全体としては2月が26.7%で最も割合が大きく、続いて5月の21.1%、1月の15.8%となる。

ゼミごとにみていくと、ゼミ1の出足が他に比べて早く、12月から2月までに71.4%がエントリーを開始しており、4月以降の2年生になってから開始したのは1名(14.3%)だけであった。しかし、ゼミ3では1月の1名(14.3%)の後は5月まで誰もエントリーしておらず、夏休み前の調査時点でも3名(42.9%)がまだエントリーを全くしていないなど、他のゼミに比べて完全に遅れている。このように各ゼミによってエントリーの時期には大きな違いがあることが分かった。

### 6. 就職活動での担任への期待

前述のように、2008年度の2年生は3ゼミともにクラス担任が担当したので、前年度の学生へと同様に担任としてエントリーシート作成の手伝いや就職相談を行うと同時に、改善策として新たに、毎週のゼミの時間に進路指導課に届いている1週間分の求人票を印刷して希望者に配布していた。このような状況のもとで、前年度と同様のアンケート調査を実施したので、最

後の項目として「就職活動において担任に頼りたいこと」を加え、複数回答可で全員に回答してもらった。その結果が図9である。



これによると、17名（77.3%）の学生が「求人情報」を流してほしいと望んでいて、「エントリーシート作成」と「会社についての相談」の7名（31.8%）を大きく引き離しており、「その他」はいなかった。

ゼミ別にみると、どのゼミでも「求人情報」が最も高い割合を示しているが、特に、ゼミ3においては8人中7人（87.5%）という高い数値であった。このことは、まだ実際に就職セミナーに参加したりエントリーしたりといった行動を開始していないゼミ3においては、求人情報を得ることも自分から進んでしている状態ではないということを示している数字だといえよう。

実際問題として、自分で学生ネットから求人票を見るようにと何度も言っているが、なかなか自分から見ようとしないのが実情で、進路指導課宛に来ている求人票を毎週印刷して手渡ししながら相談にのっている状態である。

また、エントリー用紙作成の相談がゼミ3の集団において少ないのは、アンケートをとった時点でまだエントリーをしたことのない学生が多数いたためであり、この調査以降に、就職活動で出遅れていた学生集団が、本格的に行動を開始する段階になると履歴書の書き方やエントリーの仕方などを具体的に聞いてくる学生数は増加した。

#### IV. 卒業後の状況

2007年度と2008年度のアンケート調査の対象者となった2008年3月と2009年3月の卒業生全員に対して、往復はがきによって卒業後の状況を調査した。（資料3）

無記名OKということで75名に発送したが、転居先不明での戻りも多く、回収率は非常に悪く、2008年3月卒業生：9通、2009年3月卒業生：7通の16通だけであった。

2008年3月卒業生では転職者4名からも返送があったが、2009年3月の卒業生は全員卒業時の職場に続けて勤務している人である。

しかし、16人のうち12人（75.0%）が卒業時の就職先で継続して勤務していることは、卒業生の全体像とは程遠いのではないかと思われる。

「往信」の部分も付けたままで返送されたものも2通あり、往復はがきにどのように対処するか分からなかったり、手紙を書くという基本的なこと自体が欠けているために「返信」を出さなかったりという卒業生も多いと推測できる。しかし、それ以上に、離職して転職を繰り返したり、現在フリーターだったりして、今更もとの担任に連絡しても・・・との判断から「返信」を送ってこなかった卒業生も多いのではないかと危惧している。

また、進路指導への意見・職場での悩み・後輩への一言を自由に書いてもらうように設けた「メッセージ欄」に、転職した人だけでなく継続勤務中の卒業生においても「いつも辞めたいと思っているが、負けないよう毎日頑張っています。」「就活は大変ですが、就職後の方がもっと大変と、今すごく身にしみています。」「個人売りにとても厳しい会社で、みんながライバルで常にピリピリした空気で、売上げが取れないとボーナスももらえません。」などの担任に向けた悲鳴にも似たつらさを訴えるコメントが寄せられている反面、「第一志望のブランドに配属されたので、とても楽しく仕事をしています!!」、「良い職場に恵まれて、毎日新鮮で楽しいです。」といったコメントも寄せられている。

したがって、働くとはどういうことかをしっかりと自覚させるとともに、就職活動時の企業研究をしっかりとやり、働きやすい企業や自分に合った職種を選ぶ選択眼を養わせることが、早期離職をさせないためには大切であろうと思われる。

なお、「返信」がなかったグループだが、卒業時に進学を選択した学生の多くが、卒業後に元の担任である私のもとに相談に訪れており、その状況は次のようなものである。

2008年度卒業生では、ゼミ2から1名が大学編入、ゼミ4からは大学編入1名と専門学校入学3名がいた。しかし、これらの学生は前出の就職活動のアンケート調査時に「まだしていない」と回答した学生たちであり、その後、就職活動をすることなく、あるいは少しだけやって成功しなかったために、進学を決めた学生たちであった。

その結果は、ゼミ4の4名のうち、大学編入者は「転居先不明」で往復はがきが戻り、専門学校進学の名は全員夏休みまでの数ヶ月のうちに退学してしまっている。そのうちの1名は昨年秋に就職し、もう1名は転職を繰り返した後、今年の9月から新しい職場に勤務している。

2名ともに、専門学校を辞めたあとで、就職の相談やエントリーシート作成などで元のクラス担任の所に通って来ていたが、その度に中途での就職の厳しさと、卒業時に就職しないで安易な道を選んだことへの後悔を口にしていた。

## V. おわりに

ファッション・デザインコースでは比較的地味でおとなしく真面目にコツコツやるタイプの

学生と、学習意欲が高く方向さえ示せば自分からどんどん就職活動をして内定をいくつももらってくる学生、学習意欲もなく化粧やネイルアートにエネルギーを注ぎ、自分からは全く就職活動をせず、このまま放っておくと卒業も危ぶまれ、何とか卒業してもフリーターになってしまう確率の高い学生との3グループに分かれていることが、身支度の時間や費用の面からも明らかになっている。特に、第3のグループの学生は就職活動のためのエントリーシートの書き方の相談に、自らすすんで担任のもとを訪れることなど皆無である。そして、就職活動中の学生が就職セミナーや説明会、会社訪問などに費やしている時間を、これらの学生はアルバイトに向けていることが多く、必然的に高額な収入を得て、それを自分の自由になる小遣いとして、自身のおしゃれや遊興のために使っているのである<sup>3)</sup>。

したがって、2007年度のゼミ4の学生たちに代表されるように、ゼミの担当者がクラス担任以外であった学生たちは、ゼミの先生に就職の相談をするでもなく、担任と全く顔を合わせないまま厳しく注意されることもなく、就職活動に関する情報も届かず、呑気に1年生の時の延長線上で、時間割に余裕が出た分はさらにおしゃれをすることに費やし、将来を考えることなく今が楽しければOKといった価値観のまま過してしまっている。そして、窮余の策として専門学校への進学をしたものの、元来何をやりたいのかという明確な目標もないままの逃避とも言える進学であったために、結局短期間のうちに退学してしまうという最悪の結果になっていたのである。

改善策として、2008年度の2年生ではクラス担任がすべてのゼミを担当し、就職についても常に目を光らせることとした。

しかし、前述の第3グループに属する学生が主導権を持ってしまったゼミ3においては、就職活動を具体的にしている学生においても、就職セミナー・説明会は最初に行った時期が5月：2名、会社に最初にエントリーした時期が5月：2名、6月：1名であり、他の内定者が多い集団に比べて半年近い遅れをとっている。しかも、周囲に内定者がいないため、のんびりしており、何とかなるといふ根拠のない安心感が満ちていた。秋学期になってもその傾向は変わらないため、卒業間近の時期になっても学生を呼び出し、担任主導での就職活動を展開し、何とか1名を除いては就職活動終了で卒業式を迎えることができたというのが実情である。

短大生においては自分ひとりでさっさと行動する学生は少数であり、多くの学生は常に群れて行動しようとする傾向が見られる。駅で待ち合わせをして登校するのと同じように、就職セミナーや会社説明会にも友人と一緒に行動しようとする学生が多い。

その結果、早い時期から就職活動で行動的な学生が周囲にいるゼミでは全体に開始時期も早くなり、内定者も多くなっている。また、1社内定した段階で安心して就活を終了する学生のゼミと、1社内定してもさらに就活を継続して志望に近い企業を目指す学生集団のいるゼミとに分かれてもいる。しかし、早い時期に就職活動を開始した学生のいなかったゼミでは、全員がのんびりしており、担任が毎回うるさく言っても行動に移した学生が少ないことも判明した。

ところで、2007年度と2008年度の調査で、ともに就職活動を「まだしていない」学生が皆無であったゼミ1には、それぞれフレッシュマン・セミナーのリーダー学生たちがいた。このリーダー学生自体、希望者がいないために担任が頼み込んでなってもらったという経緯があるが、それでも、このリーダー学生たちが就職活動でも中心的な役割を果たし、ゼミのメンバーを牽引していったということが数字の上でも明らかになった。

また、ゼミ3の学生で12月にセミナー・説明会に行き、1月に最初のエントリーをするなど、早いスタートを切っておきながら、1、2社落ちると就職活動自体を諦めてしまい、その後はエントリーすることなく過ごしている学生が1名いるが、これはこのゼミだけに限らず、クラスの学生全体に見られる傾向である。高校入試・短大入試と推薦入学やAO入試で受験競争の洗礼を受けていない学生が多いため、1社落ちるとこの世の終わりのように落ち込み、次の就職試験を受けるのを止めてしまうのである。18歳まで受験という競争を全く経験しておらず、「受けたら絶対に入れる会社を紹介して!」と言ってくる学生に、就職試験はそれまでの試験と違って振り落とす試験であること、1社だけ受けてそこに合格して就職活動終了というのは稀有なケースであることを十分に理解させることが必要であろう。

現在、ファッション・デザインコースではクラス担任が1年次のキャリアデザインの授業に引き続いて、2年次の生活科学セミナーを担当しており、生活科学科の他のコースでもほぼ同様の体制をとり、1年秋学期から2年次の春学期・秋学期の1年半の間、学生に就職についての情報を送り続け、就職率100%にできる限り近づけるようにと努力している。しかし、不況で求人数が激減している中で、「何とかなる」という根拠のない安心感に浸り緊張感のない学生集団や1、2度の失敗で諦めて就職活動自体を止めてしまっている学生集団を卒業までに意識改革すること、就職活動からの逃避としての進学をさせないこと、さらには、継続して勤務できるような企業や職種を選んで就職できるようサポートすることなど、クラス担任に課せられている責務はますます重くなっているといえよう。

**【注】**

- 1) 井上和子・西谷正弘・佐藤啓子・大出英子・砂盃ひとみ・先川直子：「目白大学短期大学部学生の生活実態調査（第1報）—食事、運動、休養、飲酒、喫煙—」、『目白大学短期大学部研究紀要』第43号、平成19年  
先川直子・西谷正弘・大出英子・砂盃ひとみ・佐藤啓子・井上和子：「目白大学短期大学部学生の生活実態調査（第2報）—身支度、授業態度、アルバイト、読書及び図書館の利用—」、『目白大学短期大学部研究紀要』第43号、平成19年  
佐藤啓子・大出英子・西谷正弘・先川直子・井上和子・砂盃ひとみ：「目白大学短期大学部学生の生活実態調査（第3報）—職業に関する意識と環境問題に関する意識について—」、『目白大学短期大学部研究紀要』第43号、平成19年
- 2) 先川直子「生活科学科学生の身支度に関する実態調査—コース別特性と経時的変化—」『目白大学短期大学部研究紀要』第44号、平成20年
- 3) 先川直子「前掲書」p.41

**【参考文献】**

- 1) 『2008 ファッション界就職読本』、アパレルルーム、平成19年
- 2) 『2009 ファッション界就職読本』、アパレルルーム、平成20年
- 3) 『2010 ファッション界就職読本』、アパレルルーム、平成21年

資料1

就活・身支度等に関するアンケート調査（ファッション・デザインコース2年用）

2007年7月

昨年夏のアンケート調査以降どのように変化しているのか・いないのか、また、その原因は何かを探ることにより今後の指導とカリキュラム編成に生かしていきたいので、協力をお願いします。（担任 先川直子）

就職活動について

- ① まだしていない      ② 活動中      ③ 活動終了

①の人：理由は何ですか？

②、③の人：

就活をはじめたきっかけ（複数回答可）

1. 進路ガイダンス      2. 友人      3. 親・兄弟      4. クラス担任  
5. ゼミの先生      6. 何となく      7. その他（具体的に

就活について相談したのは（複数回答可）

1. 進路指導課      2. 友人      3. 親・兄弟      4. クラス担任  
5. ゼミの先生      6. 相談しない      7. その他（具体的に

就職セミナー・説明会に最初に行った時期

昨年12月    今年1月    2月    3月    4月    5月    6月    7月  
その他（

会社に最初にエントリーした時期

昨年12月    今年1月    2月    3月    4月    5月    6月    7月  
その他（

内定をもらっている人は、内定が出た時期

3月    4月    5月    6月    7月    その他（

クラス担任とゼミ担当が      ① 同じ      ② 異なる

①、②それぞれの、就活についての利点・欠点などを、自由に書いてください



資料2

就活・身支度等に関するアンケート調査（ファッション・デザインコース2年用）

2008年7月

就職活動の現状と、登校前の身支度について入学時からどのように変化しているのか・いないのか、また、その原因は何かを探ることにより今後の指導とカリキュラム編成に生かしていきたいので、協力をお願いします。（担任 先川直子）

就職活動について

- ① まだしていない      ② 活動中      ③ 活動終了

①の人：理由は何ですか？

②、③の人：

就活をはじめたきっかけ（複数回答可）

1. 進路ガイダンス      2. 友人      3. 親・兄弟      4. クラス担任  
5. 何となく      6. その他（具体的に

就活について相談したのは（複数回答可）

1. 進路指導課      2. 友人      3. 親・兄弟      4. クラス担任  
5. 相談しない      6. その他（具体的に

就職セミナー・説明会に最初に行った時期

昨年12月    今年1月    2月    3月    4月    5月    6月    7月  
その他（

会社に最初にエントリーした時期

昨年12月    今年1月    2月    3月    4月    5月    6月    7月  
その他（

今までにエントリーした会社数（      ）社

内定をもらっている人は、最初の内定が出た時期

3月    4月    5月    6月    7月    その他（

全員：就活でクラス担任に頼りたいことは何ですか

1. 求人情報      2. エントリー用紙作成の相談      3. 会社についての相談  
4. その他（具体的に

就活に関して感じたこと・思っていることなどを自由に書いてください。

資料3

あなたの学生時代の就活と現在の状況について、次の質問に回答してください

目白大学短期大学部生活科学科

ファッション・デザインコース 担任 先川直子

1. 卒業年について

- ① 卒業したのは (            ) 年3月
- ② 就職した職種：  
                    良かったら会社名も
- ③ そこに内定した時期
- ④ そこは第 (        ) 志望の就職先
- ⑤ 就活を始めたのは (        ) 年生の (    ) 月

2. 現在について

- ① 今の勤務先は卒業時と同じ    YES    NO  
      NOの人は 卒業後 (    ) 度目の職場で  
      (            ) 年 (    ) 月から勤務
- ② 今の仕事は、いつごろまで続ける予定ですか？

〈メッセージ欄〉

進路指導への意見・職場での悩み・後輩への一言など